

横浜国立大学 横浜市における地球温暖化対策ワークショップ

『利他』と『共創』が実現する
地球の未来、そして地球維新

～クライシスの時代を乗り越え「改革前夜」へと～



2026年6月29日（月）
株式会社エクソル 代表取締役社長
一般社団法人太陽光発電協会 理事
鈴木 伸一

(株) エクソル 会社概要

2001年1月24日設立（現在:第27期）



25th ANNIVERSARY XSOL

JPEA 太陽光発電協会
Japan Photovoltaic Energy Association

代表者 : 代表取締役会長 川勝 一司 代表取締役社長 鈴木 伸一
資本金 : 1億円
事業所 : 国内9ヶ所、海外1ヶ所

京都本店：京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659
東京本社：東京都港区芝大門2-4-8

売上高 : 345億円（2026年5月末）
出荷容量 : 324MW / 第26期（累計3.9GW）
従業員数 : 413人

事業内容 太陽光発電システム（住宅・産業用）の設計、施工、販売
太陽光発電システムの運転管理、保守管理
太陽光発電関連製品の開発、製造、販売
太陽光発電事業ならびに太陽光発電所の売買

- ★「太陽光発電事業の評価ガイド」、「太陽光発電システム保守点検ガイドライン」の策定に参加
- ★2019年 JPEA（一般社団法人 太陽光発電協会）理事会社に就任
- ★2020年 事業理念 XSOLUTION 策定
- ★2022年 経団連（一般社団法人 日本経済団体連合会）に加入



講師プロフィール

「利他」と「共創」が実現する
地球の未来、そして地球維新

～クライシスの時代を乗り越え「改革前夜」へと～



株式会社エクソル
代表取締役社長
鈴木 伸一

大阪大学経済学部を卒業後、1982年三菱電機株式会社に入社し、1995年から太陽光発電システム事業に従事。2013年から太陽光発電協会（JPEA）事務局長を務めた後、2015年エクソルに入社、代表取締役副社長に就任。2016年代表取締役社長に就任。2019年から太陽光発電協会・理事も務める。

Agenda

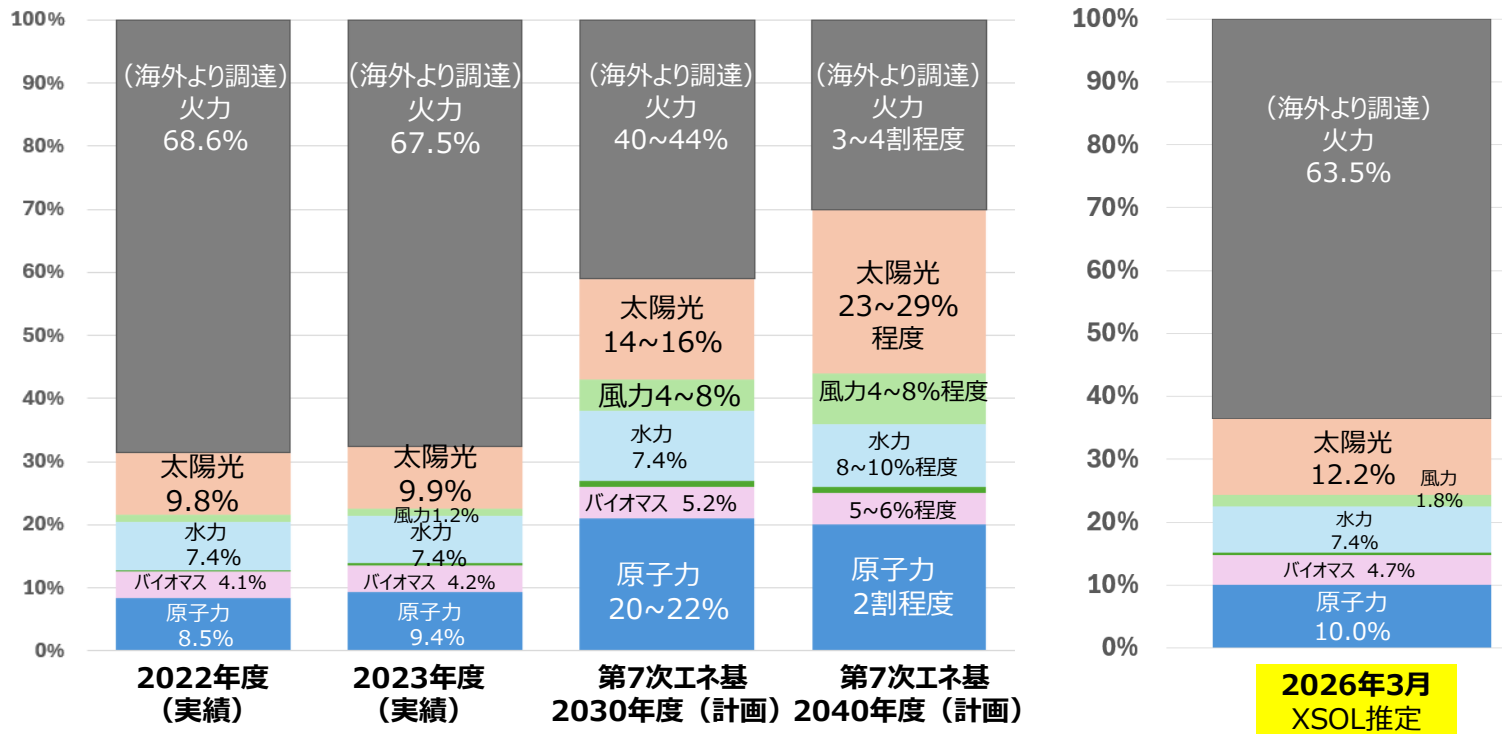
1. 地球・日本のエネルギー政策のあるべき姿とは？
2. 再エネ・PV・原発・火力、それぞれの役割やこれまでとこれから
3. なぜ、「クライシスの時代」なのか？それを乗り越えるとは？
4. 「拝金主義」に姿を変えてしまった末期的資本主義
5. すべての原因は「自分さえよければいい」という「エゴ」という名の地球に蔓延する「悪想念」
6. 対症療法と根本治療
7. 日本における、あるべきPV普及の姿
8. これから来る未来の子供たちのために

1.地球・日本のエネルギー政策のあるべき姿とは？

→「エネルギー基本計画は『計画』ではない」

エネルギー基本計画は『計画』でもなければ「目標」でも「見込み」でもない ただの『目安』に過ぎない

■ 2040年度におけるエネルギー需給の見通し



現行・原子力発電に可能性・経済合理性はあるか？

2023年5月

原子力発電所**60年超の運転**を可能にする「GX脱炭素電源法」が成立

第7次電源構成では、原子力発電所は新設含めて2割に

新設または60年超え運転、製造業者・発電事業者にやりたい者はいるか？

増え続ける 対策・建設コスト

従来の規制基準	新規制基準 (2013年7月)	対策
シビアアクシデントを防止するための基準 (いわゆる設計基準)	意図的な航空機衝突への対応	テロ対策 (新設)
	放射性物質の拡散抑制対策	
	格納容器破損防止対策	シビアアクシデント対策 (新設)
	炉心損傷防止対策 (複数の機器の故障を想定)	
	内部溢水に対する考慮 (新設)	
自然現象に対する考慮	自然現象に対する考慮 (火山・竜巻・森林火災を新設)	
火災に対する考慮	火災に対する考慮	強化または新設
電源の信頼性	電源の信頼性	
その他の設備の性能	その他の設備の性能	
耐震・耐津波性能	耐震・耐津波性能	強化

出典:原子力規制委員会資料

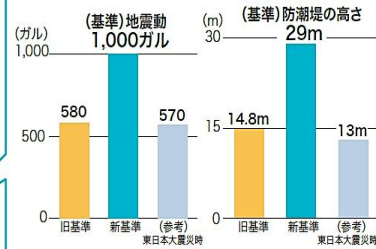
シビアアクシデント対策例

万一、圧力低下のために格納容器内の気体放出が必要になった場合でも、放射性物質の放出量を1/1000以下に抑制できる装置や、水素爆発を防止する装置を設置。



新規制基準での強化例

地震：基準となる地震の揺れの強さを580ガルから1,000ガルに
津波：震災等の知見を踏まえ、想定津波の高さを23.1mとし、防潮堤の高さの基準を14.8mから29mに



出典:東北電力ホームページ

資料) 2026年6月12日 2025-日本が抱えているエネルギー問題 (前編) より

現行・原子力発電に可能性・経済合理性はあるか？

資料) 2024年7月9日 気候ネットワーク エネ基連続ウェビナー
第1回 気候変動と原子力気候変動と脱原発 まとめより抜粋
龍谷大学 大島堅一

気候変動と脱原発

1. 原発は、気候危機対応に間に合わず、役割を果たさない
2. 原発は、お金がかかりすぎ、負の遺産が大きすぎる
3. 原発派、深刻な環境破壊を伴う
 - ・放射能汚染（原発、再処理工場）
 - ・労働者被ばく
 - ・核ゴミの行き場がない
 - ・原発事故による汚染
4. 原発は、安全が確保されていない＝危険である
5. 気候変動対策の妨げになる。
6. 原発問題と気候変動問題は、性格も対策も同じである。

52

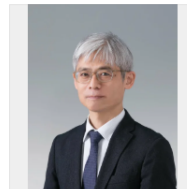
資料) 2026年3月11日 YAHOO!ニュース (AERA DIGITAL) より

「原発は経済性・安全性・環境性のいずれも破綻している」 エネルギー政策の専門家が断言 原発依存から再エネ中心に

3/11(水) 7:30 配信 178

AERA
DIGITAL

(AERA編集部・野村昌二)



福島第一原発事故から15年。廃炉作業は続くが、燃料デブリ取り出しは微量にとどまる。一方、柏崎刈羽原子力発電所が再稼働した。エネルギー政策の専門家である龍谷大学の大島堅一教授に話を聞いた。

【写真】大島教授の写真はこちら

おおしま・けんいち／龍谷大学教授。専門は環境経済学。脱原発社会を目指す「原子力市民委員会」座長、日本環境会副代表理事。著書に『原発のコスト』など（写真／大島教授提供）

* * *
東京電力の柏崎刈羽原発の再稼働には、経済的にも政策的にも合理性が全くない——。私はエネルギー政策の専門家として、そう断言します。

東電は「再稼働により年間1千億円程度のコストが浮く」と主張しています。しかし、これは燃料費の差額のみ単年度で比較しての試算に過ぎません。

例えば柏崎刈羽原発を2基稼働させると、年間の発電量は約158億キロワット時になります。これを市場調達すれば、2024年実績で約1900億円程度。対して、原発2基を再稼働させると核燃料費は約400億円、維持費は1千億円で、合計1400億円です。差額は500億円程度にとどまり、どこをどう見ても1千億円という話にはなりません。

再エネ vs 現行・原子力発電 論争

再エネに対する批判

- ・金儲けばかりで、コスト低減や安定供給、地域共創に取り組んでいない。
- ・太陽光や風力は天候に左右され不安定、需給バランス調整も難しい。
- ・導入が進むにつれて、送電コストや賦課金が上昇する。
- ・地域の森林伐採や土地改変が行われ、土砂災害のリスクが高まる。
- ・景観が悪くなる。
- ・大量の廃棄物が発生する。
- ・パネルの生産地である中国ウイグル自治区において、人権問題が取り沙汰されている。
- ・海外からの輸入に頼っていて、国内需要に結びつかない。
- ・再エネ賦課金があがり、電気代の上昇を招いている

両者共に定量的可能性・経済合理性等のデータ不在



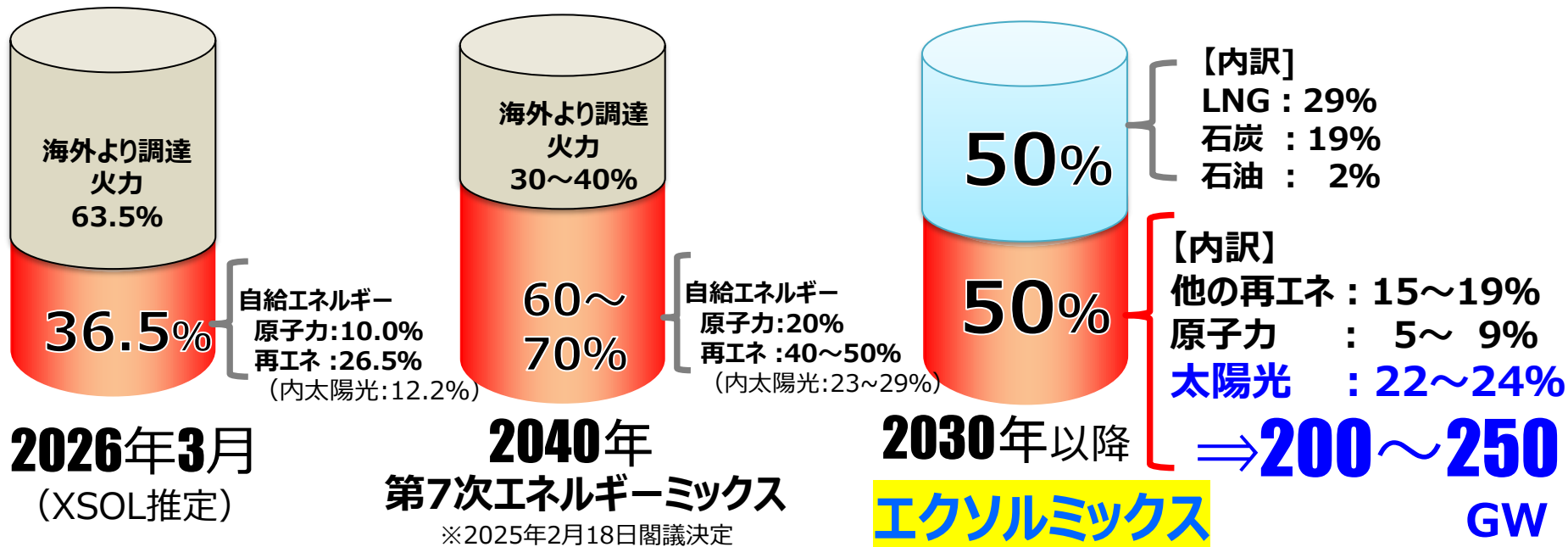
VS

現行・原子力発電に対する批判

- ・経済合理性がない。
- ・原発ムラと言われるように閉鎖的な利権構造がある。
- ・福島原子力発電所の事故が示したように安定供給源として信頼できない。
- ・ゼロエミ電源なのに、建設・燃料調達・廃炉まで含めるとCO2を大量に排出する。
- ・ウランを輸入しなければならないのに、自給エネルギーというのはおかしい。
- ・放射性廃棄物の処理問題がまだ確立されておらず、「負の遺産」となっている
- ・原発を新設する際や廃棄物の処理に多くのCO2が排出される。
- ・地域が、戦争やテロの際の攻撃の対象となるのではないか。



まずは、エネルギー自給率 最低「50%」確保！



2.再エネ・PV・原発・火力、それぞれの役割や これまでとこれから

→エネルギーとはなにか？本来、宇宙・地球と自然が与えてくれた無限のギフト。世界中が平等・公平に享受されねばならない

現行・原子力発電の役割やこれまでとこれから

現行・原子力発電の技術は原子爆弾の実用化技術をスライドした
もの→コスト・量産性ともにそれが最も実用化に近かったから。
どんなにコストをかけて補強工事をしても完全に安全なものはありません、
爆弾の技術なのだから。本来、対策コストは青天井。

一方で、爆弾の技術ではない安全な核エネルギーの応用は可能。
ex. **核融合エネルギー、核融合原型炉開発**

しかし、実用化（コスト低減含め）には膨大な時間とコストが必要
即ち、核の技術＝「悪」ではなく、核兵器＝「悪」

核の技術は未来にも必要。

核の技術＝「悪」のレッテルを貼れば現行原発の廃炉ができなくなる

火力発電の役割やこれまでとこれから

火力発電は、これまで文明の発展に大きな貢献をもたらした。しかし、これも通過点。抱える問題は、CO₂排出地球温暖化問題だけじゃない。

化石燃料は一部の地域でしか産出されず、以下の重大な悲劇を産み出している。

- 1 利権の奪い合い
- 2 国際紛争の原因
- 3 世界的なエネルギー強者と弱者が顕在化する
→エネルギーにおける豊かさの不平等

ただし全てこれは人災であり、火力発電＝「悪」ではない。

利権と国際紛争がもたらす結果

(例) 映画『アラビアのロレンス』より

第一次世界大戦中、イギリス軍の情報将校ロレンスは、アラブ民族主義を支援するため砂漠に赴任。アラブ人指導者ファイサル王子や部族のリーダーたちと共に、オスマン帝国の支配に抵抗するアラブ反乱を成功に導いていく。しかし、イギリスはアラブ人の独立を本気で考えていた訳ではなく、戦略的・経済的に重要な地域だった中東のスエズ運河と**石油資源の利権獲得の為に、オスマン帝国の分断を目論んでいた**。そのため、ロレンスはイギリスとアラブの間で引き裂かれ、次第に自分を見失っていく。

再生可能エネルギー（PV）の役割やこれまでとこれから

一部に「再エネ信仰」という言葉がある。確かに現在の再エネには数多くの弱点や課題がある。

だからこそ、現在の再エネ（PV）は「つなぎ」に過ぎない、と認識すべきである。しかしこの「つなぎ」の役割は極めて大きい。

更なる技術革新が起き、誰もが平等かつ公平に享受でき、圧倒的な効率を誇る新たなエネルギー・電源が実用化・普及するまでの間、50年？100年？200年？その長い時間をつなげねばならない重要な使命を担っている。しかし、究極的には、火力、原子力を含め、すべての電源が技術的には、時代時代の『つなぎ』なのだ。

エネルギーとは宇宙・地球と自然が与えてくれた無限のギフト

太陽光は地球上の誰もが平等・公平に使えるエネルギー。

井戸水のように無電化村など含めて、誰もが当たり前
使える時代のひな型。

例え「つなぎ」であってもとても大切な使命を帯びた
『偉大なつなぎ』。

3.なぜ「クライシスの時代」なのか？ それを乗り越えるとは？

クライシスの時代とは！？

「不確実な時代」つまり「『天変地異』の時代」へ突入した！



「あたりまえ」「平和」「日常」が突然そうではなくなる。
突然訪れる「危機の時代」

『誰もがいつ、紛争・災害・混乱被害の当事者になってもおかしくない時代』

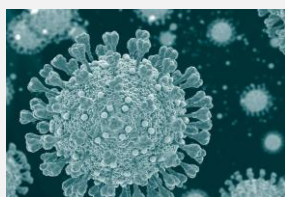
地震（能登半島）



洪水被害



新型ウイルス流行



山火事



戦争・紛争（アメリカ・イスラエルのイラン攻撃）



過去5年間の主な災害・戦争・紛争

2022年

年月	主な災害・戦争・紛争	内容
2022年2月	ロシアのウクライナ侵攻	ウクライナ
2022年8月	カブール国際空港自爆テロ	アフガニスタン・カブール
2022年6月	アフガニスタン地震	地震
2022年6月～8月	パキスタン洪水	洪水

2023年

年月	主な災害・戦争・紛争	内容
2023年4月	スーダン内戦	紛争
2023年10月	イスラエル・ハマス戦争（ガザ地区）	戦争
2023年2月	トルコ・シリア地震	地震
2023年9月	リビア洪水	洪水

2024年

年月	主な災害・戦争・紛争	内容
2024年1月	能登半島地震	地震
2024年5月	ナイジェリア北東部襲撃事件	テロ
2024年10月	シリア・ホムス襲撃事件	テロ
2024年10月～12月	パキスタンにおけるテロ事件	テロ

2025～2026年

年月	主な災害・戦争・紛争	内容
2025年1月	ロシア・サンクトペテルブルクの山火事	山火事
2025年2月	フランス大洪水	洪水
2025年6月	イラン・イスラエル戦争	戦争
2025年8月	豪雨による浸水・土砂災害（九州）	洪水
2025年10月	スーダン・エルファシエ虐殺	紛争
2025年12月～2026年1月	アメリカがベネズエラ大統領を拘束	紛争
2026年2月～	イスラエル・アメリカによるイラン攻撃	戦争
2026年3月～	レバノン戦争（イスラエル対ヒズボラ）	戦争

誰もがいつ災害や紛争（テロ）の当事者になってもおかしくない時代

トランプクライシス

アメリカ 第2次トランプ政権以降の動き

年月	トランプクライシス	内容
2025年1月	COP（パリ協定）からの離脱を表明	国連通告から1年を経て法的に発効となる。米国は国際気候枠組みから正式離脱
2025年7月	トランプ関税（日米交渉決着）	日本との関税交渉が決着。相互関税水準を調整し、貿易摩擦の一定の収束を図る
2025年11月	新モンロー主義（ベネズエラ軍事・経済圧力、キューバ問題等）	西半球重視を掲げ、ベネズエラへの制裁強化や軍事的圧力を強化
2025～2026年	イスラエル関与強化（停戦仲介）	中東情勢でイスラエルへの外交・安全保障支援を継続し、停戦仲介に関与
2025～2026年	グリーンランドへの介入・取得示唆発言	北極圏の戦略的重要性を理由に取得・強い関与を示唆し、欧州と摩擦
2026年2月	オバマ政権時代の脱炭素の科学的根拠を否定（EPA方針転換）	温室効果ガス規制の法的根拠（危険性認定）を撤回し、脱炭素政策の基盤を転換
2026年2月	アメリカ・イスラエル両軍がイランを攻撃。最高指導者ハメネイ師死亡	イラン国内の反政府デモや核開発を巡る米イラン間の協議などをきっかけに攻撃へ
2026年3～4月	原油・天然ガス市場の混乱	ホルムズ海峡リスクが高まり、エネルギー市場の不安定化が進行

※2026年11月 アメリカ中間選挙（予定）

今も昔も、武力による現状変更が世界中で
繰り返されている



「クライシスの時代」を乗り越えるとは？

戦乱・紛争

化石燃料の奪い合い、利権争いをはじめ、
そもそも、人間の「**悪想念**」がまきおこしている現象。
対症療法・根本治療により、必ず人類によって無く
すことができるはず。
それは一部の政治家や指導者に期待するものでは
ない。一人一人が、参画し、立ち向かうべきもの。
決して諦めてはならない。

No more nation! One Earth!
No more religion! One God!
UNIFICATION!!

動画リンク：<https://youtu.be/RGIBT0H7gmM>

災害

大雨/台風/ハリケーン/洪水/生態異常、
地震/火災（山火事等）/パンデミック（感染症）

地球温暖化・CO2「排出」は原因の一部に過ぎない。
地震・感染症・生態異常など地球環境が、**生命体**として苦しんでいる。
それもすべて人類が「排出」する「**悪想念**」によるもの。
人類自身の手で解決せねばならない。痛みを伴わないと気付かないこともある。
一方、起こるべくして起こる災害が常態化する時代においては、対応としての**レジリエンス**が重要。
一人でも多くの人々の命と暮らしを守らねばならない。

4.「拝金主義」に姿を変えてしまった 末期的資本主義

→「お金ってなんだろう？」

⇒「きみのお金は誰のため（田内学・著）」と
MMT (Modern Monetary Theory) に学ぶ

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

USD/JPY=160

※2026年6月

都市/国	ビッグマック価格		卵1パック (10個換算)		コーラ 500ml		都市部家賃 (1ベッドルーム・月額)	
	円	比率 (倍)	円	比率 (倍)	円	比率 (倍)	円	比率 (倍)
東京 / 日本	480	1.0	270	1.0	359	1.0	112,300	1.0
ニューヨーク / アメリカ	962	2.0	801	3.0	834	2.3	444,800	4.0
ロンドン / 英国	1,131	2.4	671	2.5	720	2.0	359,600	3.2
パリ / フランス	1,120	2.3	711	2.6	1,144	3.2	191,400	1.7
シドニー / 豪州	962	2.0	781	2.9	655	1.8	269,500	2.4

※ビッグマック価格

- ・The Economist「Big Mac Index」
- ・Numbeo を元にエクソル算出

※卵1パック (10個換算)

- ・Numbeo を元にエクソル算出

※コーラ500ml

- ・Numbeo より
- ・各国主要都市の平均小売価格
- ・Numbeo を元にエクソル算出

※都市部家賃 (月額)

- ・Numbeo を元にエクソル算出
- ・都市中心郊外の1ベッドルーム
- ・月額賃料

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

真の「経済（経世済民）」の意味、「貨幣」とは何か、に気づくべき時

〈例〉マスクの平均価格（1枚）推移（税別）

資料) エクソル調べ

2020年 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
マスク価格 枚/円	6 (最安3.4)	60	70	78 (最高160)	30	20	15	15	10 (最安5)
状況			コロナ 第一波	非常事態宣言					

ピーク時は平常時の**13倍（47倍）**の価格 → ハイパーインフレ・ハイパーデフレ

「『貨幣』はただの交換券」

「実態あるもの」=モノとサービスの「生産・供給能力」
→『仕事』こそが唯一無比の「価値」を持つ。

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

夫婦で月収110万円でも「フードバンクに頼る」、アメリカ中間層が抱える不安…
物価高で「気軽にファストフードも行けず」

2026年5月2日 読賣新聞オンラインより



フードバンクで受け取った食料を任分けるエリック・アッソンさん（左）とタイナーさん（4月24日、米サウスカロライナ州チャールストン）＝中根圭一撮影

**トランプの
米国の
中間選まで半年**

米サウスカロライナ州の港町チャールストン。郊外の一軒家を借りて妻と息子4人で暮らすエリック・アッソンさん(42)は今年、教会などが食料を無料で配るフードバンクの利用を始めた。夫婦の月収は計7000円(約110万円)あるが、「我が家の食料の多くはフードバンクに頼っている」状況だ。

家賃は月3000円(約48万円)。4月の水道代請求額は327円(約5万2000円)で1年前のほぼ2倍。電気代も月500円(約8万円)はかかり、節約のため夜8時には家の明かりを消す。ガソリン代もトランプ政権による

月収110万円でも食料支援

イラン攻撃後に跳ね上がった。妻ティナーさん(41)は電卓をたたきながら、「気軽にファストフード店すら行けない」とぼす。

将来には不安しかない。家を持つことは「アメリカンドリームだ」と思っていたが、とても夢はかなわない。大学を出て仕事に励めば、幸せな人生を送れる時代は終わった。エリックさんは天を仰いだ。

トランプ政権下の米国の覆う閉塞感の原因の一つに「アフオーダビリティ」の欠如が挙げられる。「値頃感」手が届く価格」を意味する言葉だ。公共料金や住宅コスト、食費などの高騰が、米国の豊かさを支えてきた中間層に「生活が成り立つかどうか」との不安を抱かせる。

オクラホマ州で食料配布に携わるオースティン・プリケットさん(37)は変化を肌で感じている。「これまで訪れるのはシングルマザーや高齢者が多かった。今は違う。ごく普通の家庭が来る」

◇ 半年後の11月3日に予定される中間選挙では、第2次トランプ政権への評価が有権者から下される。注目の政策テーマや現象から、米国の現在地を報告する。(9面に続く、関連記事3・8面)

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

(出典) 田内学著「きみのお金は誰のため～ボスが教えてくれた『お金の謎』と『社会のしくみ』～」東洋経済新報社・刊 より

・お金の謎① 「**お金自体には価値がない**」

・お金の謎② 「**お金で解決できる問題はない**」

・お金の謎③ 「**みんなでお金を貯めても意味がない**」

MMT/現代貨幣理論 (エムエムティー/げんだいかへいりろん)

MMTは「Modern Monetary Theory」の頭文字を取ったもので、現代貨幣理論のことです。

通貨発行権を持つ国家は債務返済に充てる貨幣を自在に創出できることから

- ・「財源確保のための徴税は必要ではない」
 - ・「財政赤字で国は破綻しない」
 - ・「インフレにならない限り国債はいくら発行しても問題はない」
- とするものです。

MMTはケインズ経済学の流れを汲むマクロ経済学理論のひとつで、「政府の財源は税と債券発行によって調達すべき」、「赤字拡大が続けば国家は破綻する」という主流派経済学の見方に対抗しています。

資料) SMBC日興証券株式会社 初めてでもわかりやすい用語集 より
<https://www.smbcnikko.co.jp/terms/eng/m/E0145.html>

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

「拝金主義」が生み出した闇

「お金さえあればいい」「お金がすべて」「お金は神様」



お金では幸せになれない

どんなに物質的に豊かであっても、不自由のない生活を営んでいたとしても日本では絶望して自ら命を絶つ人や子供たちが後を絶たない。

しかし紛争や災害で絶望的な生活を送っている、海外の難民キャンプで自ら命を絶つ子供はいない。本当の幸せとは何か？

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

- 株式会社三菱UFJ銀行／三菱UFJニコス株式会社
「エムット」新TVCM シリーズ “エン”のある家族 「その男が帰ってきた」編

弟（水上恒司） 「お金って めっちゃ大切だから。」

兄（木村拓哉） 「いいや。」

兄・姉（石原さとみ） **「大切なもののために お金はあるのだよ。」**

**5.すべての原因は「自分さえよければいい」という
「エゴ」という名の地球に蔓延する「悪想念」**

私たちの地球はなぜ、こんな風になってしまったのか？

2021/8/5
大阪大学 基礎工学部 理学部 講義
※一部修正加筆

- 地球が、有史以来、未曾有と言うべき瀕死の状況に陥っています。
- 各地で、天変地異が起り、生態系は破壊され、変異し、環境汚染により、その毒は結局、それを垂れ流した私たち自身の生命と文明を脅かしています。新型コロナウイルス感染症もそのひとつと言って過言ではありません。
- 拝金思想、即ちお金こそ神様であるという愚かな価値観の下、「自分さえ、自分たちさえよければいい」という「エゴ」という「悪想念」を世界中で発生させ、行き過ぎた資本主義が横行し、過剰で無用な再生産や消費をひたすら拡大し、その悪循環を今も繰り返していることの結果だと言えましょう。
- 本来ならば、人類が心から反省し、この「エゴ」という「悪想念」の発生排出を止めなければ、根本的な解決にはなりません。
- 自分達がこの世からいなくなった後の世界を素晴らしいものにする、という決意と志でそのビジョンを描いてゆかねばならない、と思うのです。
- 「エゴ」という「悪想念」の対局にあるものは何か？ それこそが「自分ではない誰かのために」という「利他」の想いであり、それを具現化した行動、「共創」なのです。この地球を「エゴ」という「悪想念」ではなく、「利他」と「共創」で溢れる星に変えること。**それを私たちは「地球維新」と呼んでいます。**

6. 対症療法と根本治療

→ 魁（さきがけ）としての「XSOLUTION」

魁（さきがけ）としての「XSOLUTION」

「『エネルギー』を化石燃料に依存することの危うさから脱却し、自給率をまずは50%以上に」

～生まれ来る子どもたちに 誇れる明日を残すため あなたに伝えたいことがある～



生まれ来る子どもたちに
誇れる明日を残すため
あなたに伝えたいことがある

XSOLUTION

エネルギー
自給率
50%

太陽光発電を「主力電源」とし、
化石燃料の需要を減らす。

それこそがこの国を救い、
この地球を救う、共通の答えだ。

2020年9月

XSOLUTION 発表

「国際紛争＜世界平和＞」への答え、
そのひとつがここにある

「エネルギー・セキュリティ」への答え、
そのひとつがここにある

「地球環境問題」への答え、
そのひとつがここにある

前回講義から
変更なし

人類のエゴ
過剰な物質主義と、
資本主義という名の拝金思想。
目先の欲に走った弊害が、
連鎖して全世界に拡大。



XSOLUTION

太陽光発電を「主力電源」とし、
化石燃料の需要を減らす。
それこそがこの国を救い、
この地球を救う、共通の答えだ。

**国際紛争
(世界平和)**

一部の産油国からしか
生まれな化石燃料、
その奪い合いが引き起こす
国際紛争をなくすこと。

答えのひとつが、ここにある。

**エネルギー・
セキュリティ**

世界中の人々が、
どんな時にも、分け隔てなく、
脅かされることのない
エネルギーを手にする事。

答えのひとつが、ここにある。

地球環境問題

気候変動はもとより
人類のエゴが生み出した、
あらゆる汚染源を減らし、
未来の環境を守ること。

答えのひとつが、ここにある。

国際紛争 <世界平和> への答え、そのひとつがここにある

エネルギー（化石燃料）の歴史は、その奪い合いの歴史

国際紛争が起きる要因の70%は、エネルギー資源の利権争いであると言われています。

エネルギー（化石燃料）が一部の限られたしくみと支配下にあるという問題

一部の産油国からしか手にできないものであり、その利権を限られた裕福層や王族などが独占してきたことにより、私たち世界中の人類が常にエネルギー・化石燃料の供給危機にさらされています。

今こそ、化石燃料の需要を減らす太陽光発電の普及を

他国に依存しない自給自足エネルギーである太陽光発電で、過半のエネルギーが確保できるようになれば、化石燃料への需要・依存度は大幅に下がります。

争いが減り、先進国と途上国間の格差是正につながる。

化石燃料をめぐる争いや国際紛争がなくなり、自給自足ができるようになることで、世界中の暮らしのクオリティが一気に上がり、格差是正につながります。

また、貧富の格差を原因とした暴力（テロ等）の抑制にもつながります。

「エネルギー・セキュリティ」への答え、そのひとつがここにある

エネルギーを自給できないことのリスク

近年頻発している自然災害などの発生により、停電等が長期化した場合の生活への影響や、生命危機への恐怖は計り知れません。→電力会社や大規模発電所、さらには広域電力系統網という外部インフラに依存し、自分たちで使うエネルギーを自給することができていないからです。

エネルギー自給率の低い国が抱えるリスク

国際紛争等の有事が起きた際に、エネルギー自給率が10%以下と低い国の場合、たちまちエネルギーの供給危機に陥ります。その結果、暮らしの安心が大規模に脅かされます。

自給自足エネルギーの普及へ、ソリューションは「分散化電源」太陽光発電しかない

エネルギーセキュリティに関しても、自給自足エネルギーである太陽光発電のさらなる普及こそが、有効な解決策です。さらに「電源の分散化」が電力系統網等への被害が発生した場合の対策として極めて重要になります。

エネルギーの供給リスクにさらされない強靱なエネルギーセキュリティを確保

太陽光発電によりすべての国や地域、そして法人・個人がエネルギーを自給できれば、各国の総エネルギー自給率が飛躍的に高まり、他国に依存しない強靱なエネルギーセキュリティを確保できます。

エネルギー自給率の極めて低い日本においては、この問題は喫緊最重課題であるといえます。

「地球環境問題」への答え、そのひとつがここにある

地球温暖化は環境問題の一側面にすぎない

CO₂や地球温暖化以外にも、「天変地異」ともいふべき異常気象が世界中で頻発し、特に気候変動は干ばつ、山火事、台風、大雨、洪水、生態系の異常を引き起こし、果ては疫病やウイルスをも産み出し、食糧危機にまでつながります。

化石燃料への依存が地球環境全般を脅かす

化石燃料への異常依存は、有害ガスの発生、大気汚染、水質汚染。プラごみ等の廃棄による土壌汚染、海洋・水質汚染等が引き起こされ、生物への影響や様々な環境汚染問題につながります。

化石燃料を減らしてゆくこと、そして自然や環境を大切にしながらの再エネ普及、それが地球環境問題の解決につながる

化石燃料への依存度が減ることで、気候変動だけでなく様々な汚染源も減り、あらゆる地球環境問題の解決につながります。しかし、太陽光発電の普及自体が自然破壊や廃棄物の大量発生につながることはありません。強引な山林開発などを禁止しリサイクルシステムの確立が必須条件なのは言うまでもありません。

再生可能エネルギー・太陽光発電の普及と「主力電源化」が、地球と日本の未来を変える

無限に降り注ぐ「太陽からの愛」とも言える太陽光発電を普及により、化石燃料の需要と依存度を劇的に下げてゆくこと。そして、決して枯渇することのない豊かでクリーンな太陽光発電を1kWでも多く普及させることで安全・安心・平等・公平で平和に生きてゆける世界を、未来の子どもたちに残すことができます。

7.日本における、あるべきPV普及の姿 →「『利他』と『共創』」とはなにか？

「利他」と「共創」が実現する、あるべきPV普及の姿

1. 全ての人に平等・公平なエネルギーの豊かさを！と願うこと
2. 我々はビジネスではなく、社会や人々を幸せにし、そのインフラ創りを使命としている。
即ち「経済」ではなく、「経世済民」に携わっていると認識すること
3. エネルギーとは宇宙・地球と自然が与えてくれた無限のギフト。そのことに感謝をし、
その恩返しとして、人々にその恩恵を届けること、それがエネルギービジネス
4. その結果として、ビジネスとしての成果も与えられる、ということ。即ち「原因結果の
法則」として。
5. 賛成反対の別なく、全ての関係者・当事者はパートナーであり、上記の目的のため
の仲間である、と気づくこと。即ちWinWin以外に成功はない。
6. これから来る未曾有の危機を乗り越える為には、老若男女・政官学民、そしてそれぞれの
リーダーたちが、各々の役割・責務と持てる強みを持ちより、活かしあい、近視眼的な
目先の保身を捨て、一致団結・統合して「成果」を目指し「UNIFICATION」、「利他」と
「共創」の発想と行動そして「勇気」「覚悟」が必要不可欠。

規制を厳しくした方がメガソーラー導入は進む



インタビュー

規制を厳しくした方がメガソーラー導入は進む

JPEA地域共創エネルギー推進委員会委員長のエクソル鈴木社長に聞く
2025/11/19 10:00

政府が大規模太陽光発電所（メガソーラー）の規制強化に動き出した。全国各地で自然環境や景観をめくりトラブルが起きているため。既存の規制ではカバーできない事業も多いことから、「種の保存法」など16法令の改正・見直しを検討し、年内にも政策パッケージを取りまとめる方針だ。

なぜ、メガソーラーで地元トラブルが起きるのか。太陽光発電協会（JPEA）地域共創エネルギー推進委員会で委員長を務めるエクソル（東京・港）社長の鈴木伸一氏に聞いた。



エクソルは家庭・産業向け太陽光発電の設計、施工、販売を手掛ける。鈴木社長へのインタビューはオンラインで実施した

【記事の概要】 2025年11月19日 日経Next インタビュー記事より

- ・メガソーラーを巡るトラブルの多くは、法律ではカバーできない地域の景観・自然・感情とのギャップから生まれている。
- ・法律上問題がなくても地域の不安は残るため、事業者と地域の丁寧な対話と時間が不可欠である。
- ・再エネ事業は単なる投資や利益追求ではなく、社会のための公共性を持つ事業として取り組むべきである。
- ・太陽光に対する反発は必ずしも増えているわけではなく、トラブル事例の可視化やSNSによる印象の拡大が影響している。
- ・自治体は再エネ推進と住民対応の板挟みというジレンマに直面している。
- ・悪質な事業者の排除と優良発電所の評価を進めるため、発電所の評価制度など新たなルール整備が必要である。
- ・再エネ事業は短期利益ではなく、50年・100年と長期的に価値を生むインフラとして考えるべきである。

★ 規制強化というと、普及にブレーキがかかるという見方が多いかもしれませんが、私はそうは思いません。規制を適切に強化されて共創が実現できれば、アクセルになり、むしろ導入が進みやすくなるはずです。

逆風など吹いていない。適切な規制で市場の健全化に期待

2026年1月に設立25周年を迎えるエクソル。いまや業界を代表する存在とも言えるが、そんな同社は昨今の規制強化の動きも、前向きに捉えているようだ。

2026年1月号 Pveye (vol.166)

特集 再エネ大予想2026 インタビュー記事より

——2025年はどんな1年だったか。

一言でいえば、とても良い年だった。様々な課題はあるだろうが、日本を含む世界全体で再生可能エネルギーを伸ばしていく方向は変わらず、それを阻むものは何もない。日本でも太陽光発電に対する逆風は全く吹いていない。事実、25年5月期の売上高は前年同期比横ばいの277億円で、住宅用太陽光関連事業に力を注いだ結果、住宅用蓄電設備の出荷も好調だった。26年5月期も好調を継続しており、300億円超えの売上高を目指している。売上高は過去最高ではないものの、過去最高益を計上できる見通しだ。当社なら、だけ、しかできない価値が認められてきたことがその要因だろう。

——この1年は、`メガソーラー問題、と呼ばれる地域トラブルも散見されたが。

それはあくまで一部の話であり、当事者の問題だ。当社への直接的な影響は存在していない。ただ、業界として対応していくことは必要だろう。私自身、太陽光発電協会の理事の1人であり、協会では『地域共創エネルギー推進委員会』の委員長も務めている。このままでは逆風になってしまうという危機感がないわけではないが、昨今の地域トラブルは自然災害ではなく、いわば人災である。それゆえに解決できる問題なのだ。そこで重要となるのは地域との`共創、だ。たとえば、住民説明会も建設するうえで必要な工程という認識ではなく、太陽光発電が良いものだとして理解してもらえる絶好の機会と捉えるべきである。熱意を本気で届けることが共創の実現に繋がるのだ。そういう点では、太陽光発電事業を行う最大のモチベーションが`金儲け、であるならば、地域トラブルはなくなるだろう。行き過ぎた金儲け主義のもとで事業を実施する方々は、太陽光発電業界の発展に貢献できる仲間ではない。早々に退場していただきたい。



——26年の展望は。

より良い年になるはずだ。再エネに対する需要はさらに高まり、市場も健全に発展していくことになるだろう。というのも、国が太陽光発電所の規制強化に動いているが、適切な規制は決して悪いことではなく、健全な市場の形成に繋がるからだ。当社も26年1月24日に設立25周年を迎える。決して胡坐をかくことなく、さらなる付加価値を提供できるよう進化を続けていきたい。

地域との共生/共創とは

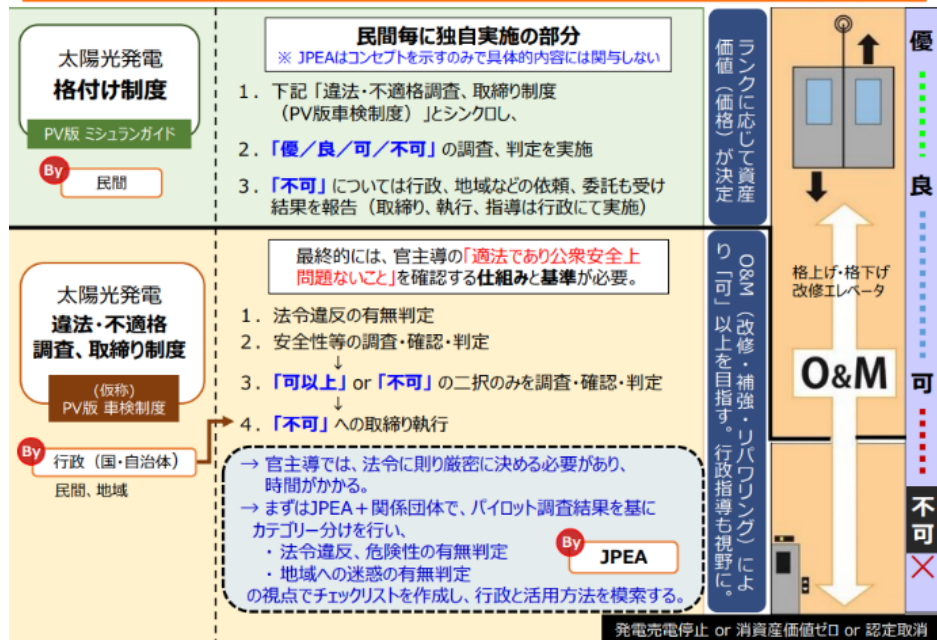
2021年より「地域共創エネルギー推進委員会」を結成して対策を協議

①委員会の結成コンセプト




1. 太陽光発電所の安全性とそれに伴う「地域に暮らす人々の安心」の確立
2. 地域において必要不可欠なエネルギー（電源）として、その貢献性の確立

②2階建てシステムで発電所の良否を判定



参考情報：JPEA地域共創エネルギー推進委員会資料第6回、第7回・第二次中間報告資料より抜粋

「競争」の中の「共創」

 **鈴木 伸一**
3月2日 0:00 · 🌐

皆さんも感じていると思いますが、兎に角、今回のミラノ・コルティナオリンピックの、ハーモニーに満ちた選手同士の、国同士の、互いの「愛」に満ちた言動には、ほんとうに頭が下がります。

「分かち合い、生かし合い、赦し合う」。

「愛」とはなにか、それは、いかにシンプルなものであるのか、と気づかされます。

今、大谷翔平選手たちのお陰で、野球の世界でもそれが広がっています。

一方で、どうして国家（政府）間では、こんな簡単なことができないのでしょうか。

国家元首たちよ、あなたの国のアスリートに学べ。

権力を持つ者は、なぜこれほど愚かなのか。

大人が子供に学ぶ時代が来たようです。

【WBC】大谷翔平選手、キム・ヘソン選手に拍手 歴史的な名場面

3月7日韓国戦4回、同点2ランを放ったキム・ヘソン選手にベンチから拍手を送る大谷翔平選手。
韓国メディア：「こんな日本人選手は初めてだ！」

8. これから来る未来の子供たちのために

→バタフライ・エフェクトを起こし、「素晴らしい過去」になろう、今、「エネルギー維新」から「地球維新」へ

2012年7月からスタートした日本版FITは大きな成果を収めた。特に太陽光発電においては予想していた数年分に相当する大量の設備認定が行われた。しかし他方、昨年起こった系統接続制約問題等をはじめ、様々な誤報や風評被害が乱れ飛び、「太陽光発電普及は早くも終焉」かのような情報や報道が乱立し、これに元々FITや再エネ普及にネガティブであった人たちが、極めて偏った論調による『太陽光発電大量普及』弊害説』を展開しているようだ。

往々にして、エネルギー問題は簡単なようで様々な変数が複雑に絡んでおり、一般の方々や普通のマスメディア関係者では、その是非を理解することが難しい。いわゆるリテラシー問題というべきものである「それをよいことに」国論を歪曲誘導しようとするのはアンフェアというものだ。したがって相当の字数を頂き、ここにできるだけその全体像をわかりやすく理解いただくこととトライした。もちろん、すべてを表すことは難しいが、ぜひ各位のご理解の一助とされたい、と考える。

- もし万が一ホルムズ海峡付近で不測の事態等が発生すれば日本のエネルギーの命脈がたちまち立たれる危険性がある
- 原発に賛成か反対かということと再エネが必要かどうかということは本質的に何の関係もない
原発か再エネかではなく、いかに火力を減らすかであり、そのためには原発がどの程度の構成比になるべきかは無関係に目一杯まで再エネを導入しなければならない
- FITとは高い再エネのコストを「自立できる本来の姿まで下げさせる」ことを大目的に最初のエンジンスタートを後押しするのが主務である。コストが急激に下がること、そしてできるだけ早く買取価格も下がること、それをもって成功かどうか判断されるべきである
- FIT制度をわけもわからず批判し、ネガティブ・キャンペーンによって止めてしまうことで、いつか自分の子供たちに詫びねばならないことだけは避けたい、いやむしろ、苦しい中、日本の国民、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちが皆で平等に負担し合って、頑張っって残した財産だよ、と彼ら彼女らに言える日を楽しみにしたい

「利他」と「共創」が実現する地球の未来、そして地球維新 ～クライシスの時代を乗り越え「改革前夜」へと～

ブースにご来訪いただいた皆さまへ

「利他」と「共創」が実現する地球の未来、そして地球維新 ～クライシスの時代を乗り越え「改革前夜」へと～

新年あけましておめでとうございます。

激動相次ぐ2025年を終え、2026年を迎えることとなりました。皆様方におかれましては、素晴らしい新年をお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。また、旧年中は多大なるご指導ご愛顧ご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

しかし残念ながら、ロシア・ウクライナ戦争は満4年を目前に、世界は未だ戦火を取る様相は遠く、「自分さえ、自分たちさえよければいい。」という個人・組織・民族・国家単位のエゴは地球を益々混沌と悲劇へ導いているかに見えます。世界の各地に拡がりつつある天変地異は、日本国内においても危機となり、青森の方々をはじめ、多くの方々が生きていく生活と向き合っております。どうかひとりでも多くの方々へ一日も早い元の暮らしが戻って来られますよう、心からお祈りを申し上げます。

ただ、やはり恐らくは、地球は更なる自然・人工による天変地異を含めた未曾有の大転換期を迎えることとなるでしょう。

私たちは、やはり原点に立ち戻り、人類にとって何がほんとうの幸福であるのか、人は何のために生まれ、何をして生きるのか、「あんばい」で問われた本質的な課題に向き合わねばならなくなると思います。一時期、未来が見えなくなるような状況も現出するかもしれませんが、しかし、これらは最悪の中から最良のものが生まれるチャンスとなると信じております。

日本においても新政権の誕生により、MMTを皮切りに化石化した過去の経済政策のパラダイムが根底から覆される中、「お金とはなんだろう」を根本から問い直し、「拜金主義」に姿を変えてしまった末期の資本主義が本来の「政(まつりごと)」の柱のひとつである「経世済民」へと改革される兆しとならんことを願います。

「神は乗り越えられない試練は与えない」と言います。私たちは試練を乗り越え、未来に来る子供たちや孫たちに「すべての事は絶望ではなく、よりよき未来につながっているのだよ」ということを、身をもって示し、彼女らに新たな光、「再生と希望、そして勇氣」を示さねばなりません。そして、私たちは子供たちにとって憧れと手本となる「素晴らしい過去」にならねばならないのです。

「バタフライ・エフェクト」。最初の蝶の羽ばたきが次々と希望の連鎖を引き起こし世界を大きく変えることがある。その最初の羽ばたき、蝶にならうではありませんか。これまで人類が自分たちの利益や快楽しか考えて来なかった、その心のあり方「悪想念」を止め払拭し、俱にこの幼い、小学生レベルの地球を変えましょう。

私達XSOLは、お陰様で本年、創業25周年を迎えることとなりました。弊社は太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの使命として「化石燃料需要の極小化・適正化」による、「国際紛争の撲滅」「分散化独立自給エネルギーの拡大によるエネルギーセキュリティと災害対策(レジリエンス)の強化」「温暖化対策にとどまらない抜本的地球環境の改善」の3つを、そしてこれらの問題の原因の根本はその根底にある「自分さえよければいい、という思い」「人類のエゴ」という名の、地球に巣食う悪想念にあることを「XSOLUTION」として提唱して来ました。

この未曾有の危機を乗り越える為には、今こそ、老若男女・政官学民、そしてそれぞれのリーダーたちが、各々の役割・責務と持てる強み、そして「志」を持ち寄り、自己保身を捨て、一致団結・統合して世界を変革する「UNIFICATION」、「利他」と「共創」の発想と行動が必要です。そして、まさしく維新の志士たちのように、新たな時代を命懸けで築かねばならないと思います。

弊社もこの「地球維新」の時代において、その「改革前夜」へ向かって、微力ながら引き続き「自分ではない道かのために」「利他」と「共創」の精神で、そして「全集中の呼吸・常中」にて精一杯の努力をさせていただきますと存じます。

本年も皆様方の益々のご健勝を心からお祈りし、
旧年のご指導ご支援をお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

株式会社工ソル 代表取締役社長
一般社団法人太陽光発電協会 理事

鈴木伸一



バタフライ・エフェクトを起こし、「素晴らしい過去」になろう、
今、「エネルギー維新」から「地球維新」へ

「神は乗り越えられない試練は与えない」と言います。

私たちはそれらを乗り越え、未来に来る子供たちや孫たちに「すべての事は絶望ではなく、よりよき未来につながっているのだよ」ということを、身をもって示し、彼ら彼女らに新たな光、「再生と希望、そして勇気」を示さねばなりません。そして、私たちは子供たちにとって憧れと手本となる「素晴らしい過去」にならねばならないのです。

「バタフライ・エフェクト」。最初の蝶の羽ばたきが次々と希望の連鎖を引き起こし世界を大きく変えることがある。その最初の羽ばたき、蝶になろうではありませんか。これまで人類が自分たちの利益や快樂しか考えて来なかった、その心のあり方「悪想念」を止め払拭し、俱(とも)にこの幼い世界を変えましょう。

よくあるご質問

番号	区分	質問
1	中国	太陽光発電は殆ど中国から輸入しているので、結局の所、中国が儲かり日本の国益に反しているのではないですか？
2	中国	中国製の太陽光パネルは人権問題（ウイグル問題等）があると聞きましたが、本当ですか？
3	不要	メガソーラーが多くニュースやSNS等で取り上げられ、良いイメージをもっていません。それについてどのように考えていますか？
4	不要	高市内閣は再エネ（特に太陽光発電）への批判が多いように感じます。太陽光発電は政府として必要ないのではないのでしょうか？
5	不要	再エネが必要だといわれている一方で、何故、太陽光発電はこんなに非難されているのですか？現実との乖離があまりすぎませんか？
6	不要	太陽光発電は景観を損なうなど、日本の自然や生態系、環境破壊等に繋がっているのではないですか？
7	不要	太陽光発電は原子力より発電効率が低く、天候に発電が左右されるので、経済的に考えると必要ないのではないですか？
8	電気料金	電気料金が値上がる要因の1つとなっている再エネ賦課金は良くないので、太陽光発電は無い方がよいのではないかと？
9	電気料金	電気料金は今後も値上がりしていくのでしょうか？（いつ頃まで上がっていくと考えますか？）
10	獣被害	熊の出没増加の要因の1つに太陽光発電設備の設置がある、というのは本当ですか？
11	非常電源	太陽光発電は地震や台風などの災害時に本当に非常用電源として役に立ちますか？
12	廃棄	使用済み太陽光パネルから発生する大量廃棄物に対する問題が気になっています。リユース、リサイクルは進みますか？
13	新技術	新しい太陽光発電（ペロブスカイト等）の導入は伸びてきていますか？
14	営農	食料自給問題の解決策として、ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）に対する支援や導入は進んでいるのでしょうか？
15	貢献性	日本のエネルギー問題の解決や脱炭素に太陽光発電は何%ぐらい貢献できますか？
16	原発	原子力は重要だと思いが、戦争が起こると標的にされる等、安全面が不安です。原発のあり方をどう考えるべきでしょうか。
17	原発	日本の電力供給において、原発の比率はどのくらいが理想だと考えていますか？
18	戦争・紛争	ホルムズ海峡の封鎖は再エネ（太陽光発電）に対して、具体的にどのような影響がありますか？
19	戦争・紛争	太陽光発電の普及によって何故、国際紛争の撲滅につながるのですか？
20	就職先	就職先として再エネ業界は市場としておすすめですか？（その中で太陽光発電業界はどんなポジションですか？）

InterFM897 「Love On Music」

2026年4月～番組スポンサーとして協賛



株式会社エクスル
リスナー番組「Love On Music」
スポンサー「協賛」がスタート
radikoで無料で視聴可能
ミュージシャンセッション番組！



写真)

左側から佐藤タイジさん (HOST)、鈴木社長、Reiさん (GUEST/ARTIST)、ジョー横溝さん (MC)

**5月11日 (月) 「Love On Music」放送回に鈴木社長 出演
鈴木社長出演箇所を抜粋し、HP・SNS・メルマガで動画配信！！**

[【YouTube配信中】代表取締役社長 鈴木伸一が出演した「Love On Music」の様子を公開 | 太陽光発電のXSOL \(エクスル\)](#)

代表取締役社長が番組に出演決定！



エクスルは、太陽光発電の総合企業として、住宅用から産業用まで幅広い領域で事業を展開し、再生可能エネルギーの普及と安定供給の確立に取り組んでいます。本取り組みを通じ、ラジオ番組による情報発信により、より多くの方に当社の活動を知らせていただく機会を創出を願っています。

出演日時 **5月11日(月) 20時～**

株式会社エクスル
代表取締役社長 鈴木伸一

XSOL 25th ANNIVERSARY
03-5425-1258 www.xsol.co.jp

ご清聴ありがとうございました。